



ちょっとてれるなあ



いきいきとした町づくりをめざして

議会だより かつうら

No.19

2002. 5. 15発行

発行 徳島県勝浦町議会
編集 議会広報調査特別委員会

〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町久国
TEL (08854) 2-2511

減り続ける予算を可決	2
注目の予算	3
質疑と討論	4
特別委員会の活動	5
常任委員会の活動	6
12議員の一般質問	8
声のひろば	20

予算を可決

33億1,800万円

9,671万円

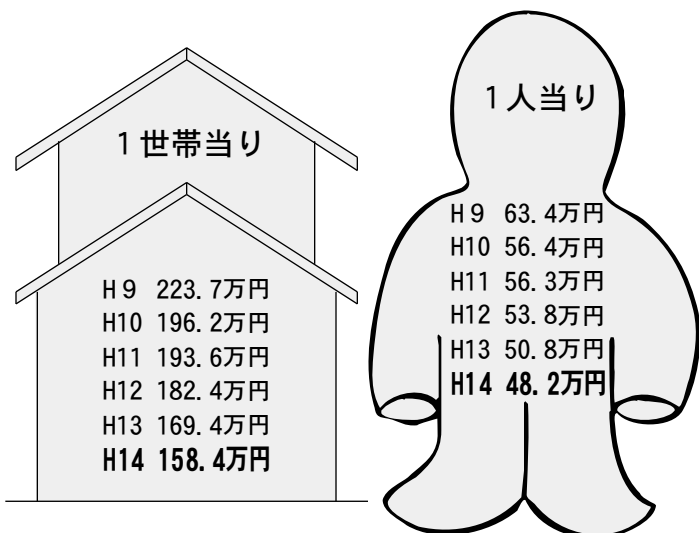
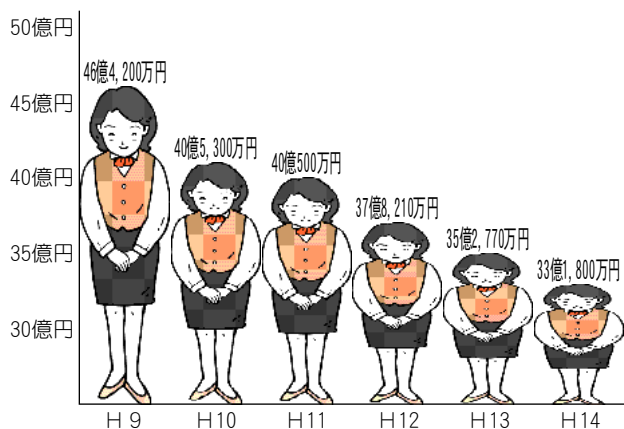
簡易水道 2,832万円

集落排水 2,731万円

住宅新築資金 1,441万円

8億3,200万円

一般会計予算の推移



3月定例会

減り続ける予算 一般会計五・九%減

五年前より十三億円余り減る

三月定例会は三月八日から二十七日までの二十日間開かれ、二十六の議案などを慎重に審議しました。

前年比五・九%減額の一般会計予算案は賛成十人、反対二人で原案どおり可決しました。また、町長給与の割カットなどの条例改正も行いました。

一般質問には議長を除く全議員が登壇し、町の考えをたできました。

14年度 一般会計

特別会計 23億

国民健康保険	7億3,693万円
老人保健	10億 674万円
介護保険	5億8,300万円

病院事業特別会計



新今山橋完成

総事業費 13億8,665万円

財源内訳	国費	5億5,350万円
	県費	2,667万円
	町費	5,988万円
	借入金	7億4,660万円

注目の予算

- 徳島東部臨海処分場地元対策費負担金 776万円
徳島空港滑走路拡張と併せて焼却灰などの最終処分場を作るための地元対策費
- 町単独農業振興補助金 1,100万円
その中で新規就農者に月6万円を1年間助成する
- 商工会商品券補助金 120万円
商工会が発行する商品券に対して1割のプレミアムをつける
(1,000万円に100万円)
- 有害鳥獣駆除報償費 100万円
農作物に被害を与えるイノシシ、シカ、サル、カラスなどを猟期外に駆除した場合に支払う

条例改正の主なもの

三役と教育長の給与を一部カット

町長 10%
助役 5%
収入役 3%
教育長 3%
十六年三月までの間カットする

農業委員の定数を削減

選挙による委員十二人を十人に削減する

(議会推せん四人を二人に、農協・共済各一人は変わらず)十八人の委員が十四人になる

同和対策課を廃止

地対財特法の失効により

四月一日から一般行政に移行する

人権擁護委員に

細川 寛氏(坂本)の推せんに同意

副議長に

国清 栄 議員を指名推選



国清副議長

町道改良費

一千万円の増額では
少なすぎる

問

町道の維持改良費を一千万円増額し四千万円にしたが、これではまだ少なすぎるのでは。

答

建設課長 町道の痛みは認識しているが財政が厳しいので、急を要する所から順位をつけて取り組む。

勝浦高校実習園跡地

今になって利用計画に
百万円とは

問

何年も調査研究してきたのに、この財政が厳しい時に百万円の委託料を支出して利用計画を作る意味があるのか。

答

総務課長 企画分野の遅れた我々の立てる計画でなく、よい委託先に実態に即した計画を立ててもらう。

旧坂本小学校

敷地料値下げの根拠は

問

旧坂本小学校の敷地料を約三分の二に減額しているが、何を根拠に算出したのか。

答

教育委員会事務局長 グリーンツーリズム事業で利用する面積が約三分の一なのでその分減額した。

議長交際費

三割カットは適当か

2件の陳情を審議

社会福祉法人勝寿会からの

特別養護老人ホームとデイサービスセンター敷地（町所有）の無償譲渡を要望する陳情は

厚生常任委員会に付託しました。

キンキサイン(株)、生名区
ほか四団体代表者からの

キンキサイン西側の農地から砂利採取が計画されていることに反対する陳情は採択しました。



今になって利用計画に100万円とは

主な討論

農業委員会の定数削減条例

削減に反対

森(健)、福徳議員

町内の農業条件から、その土地に詳しい委員が必要であり、小さな地域が切り捨てられる。

削減に賛成

西浜、押栗議員

十数年前から論議されてきたことであり、農業振興上の問題は少ない。

採決の結果、賛成十人、反対二人で定数削減の条例は可決しました。

修正動議

同和对策負担金を道路改良費に

原田議員から、県町村会に支出する同和对策事業負担金二百二十六万六千円を、全額道路改良費に組み替える一般会計予算の修正案が提出されました。

修正に反対

川端議員

今年は十五・八%削減されており、他町村との協調関係からも勝浦町が全廃するのは、適当でない。

修正に賛成

中西議員

地対財特法が切れたこの時期に、町独自でやるべきだ。

採決の結果、賛成二人、反対十人で修正案は否決されました。

問 議長交際費が、他町村と比べて少なすぎる。予期しない事態への対応も考えると減額は適当でないのでは。

答 議長 十三年度は七十五万円の予算であったが、三十万円足らずか使っていないので、五十万円で良いと判断した。

補助金など

一割カット見直せ

問 年間十万円以上補助金などを支出している団体の会合や活動には担当課が出席し、実態を把握して見直すべきだ。

答 町長 できていると思っているが、できていない所があれば指示したい。

農村環境改善センター

所長を置いて

管理させては

問 環境改善センターは、管理人一人に約二百七十万円の経費がかかっている。

所長であれば、条例で月額十三万四千円となっているので、所長を置いて管理をさせると百万円以上の節減になるのでは。

答 産業振興課長 今後、行財政改革の中で施設の管理運営について論議されると思う。

特別委員会の活動

市町村合併

議員全員が委員に

三月一日に会議を開き

①一市四町の任意協議会設立総会に、議長が来賓として出席する。

②上勝町の合併委員会からの協議申し入れに対しては、正副委員長が調整する。

③今まで六人であった合併特別委員を議員全員とする。などを決定しました。

東部広域農道

徳島農林事務所と合同会議

四月三十日午前委員会を開き、現地踏査などを行いました。

午後は期成同盟会、徳島農林事務所と合同で会議を開きました。

問 土砂で埋め立てするかわりに、

発泡スチロールを使用するEPS工法は大雨に弱いのでは。

答 農林事務所 山肌シートを敷くなど、排水面には十分配慮した設計なので心配ない。



発泡スチロールで埋め立てするEPS工法

平成13年度補正予算

一般会計

221万4千円を追加

総額 38億5,046万2千円



小学校の空教室を改造

注目の補正

- 子育て支援事業 3,229万9千円
学童保育のための余裕教室改築
(生小、横小) 2,515万5千円
保育所安全のための門扉などの改良
(生比奈、横瀬) 714万4千円
- コミュニティ補助金 250万円
町内の阿波おどり連の備品購入

総務

財調基金

一億円取り崩し

二月二十八日に委員会を開き、十三年度補正予算、十四年度当初予算、条例改正などについて説明を受け審議しました。

問 厳しい財政状況下での予算編成に、どのような手法で取り組んだのか。

答 総務課長 各課の要求額から一億三千万円をカットするとともに、財政調整基金を一億円取り崩し予算編成した。

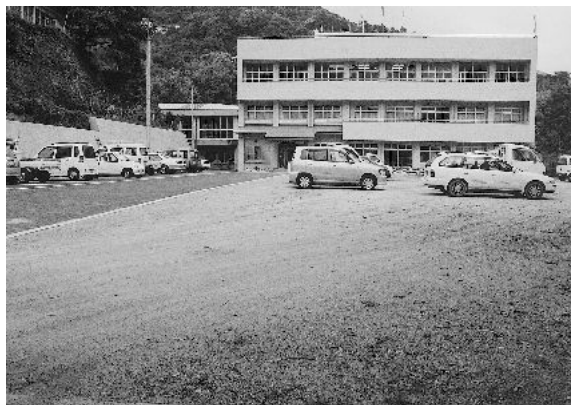
問 今後の予算編成にも基金の取り崩しを行うのか。

答 町長 このままでは、合併するまで基金の取り崩しは続く見通しである。

委員会として 十四年度当初予算案などを三月定例会に提出することを了承しました。

坂小跡の敷地料を減額

教育委員会から 旧坂本小学校の運動場と体育館を社会体育施設として残してほしいと地元から要望があり、今まで通りの使用を認めました。た



坂本区への敷地料21万円に減額

だし、「ふれあいの里さかもと」の運営を地元で委託した関係で、今まで坂本区に支払っていた敷地料三十四万円を二十一万円に減額し、五年後に再見直しをすると報告がありました。

委員会として 了承し、全員協議会で協議することにしました。

新しい町史の編さん

教育委員会から 昭和五十六年度の町史発刊以来、町の歴史が記録されていない。新しい町史を発刊するため、三年

計画で編さん事務を進めていきたいとの報告がありました。

委員会として 了承しました。

活動報告

厚生

集落排水 管理委託料

大幅安に

三月四日に開催し、十三年度補正予算、十四年度当初予算および農業集落排水の管理委託料、同和对策課廃止に伴う残事業などについて説明があり審議しました。

住民課長から農業集落排水事業の管理委託料が二業者による見積りで前年度四百万円余りだったのが、今年には二百三十万円と安くなったと説明がありました。

問 委託料が大幅に安くなった管理作業に問題はないのか。

答 住民課長 問題はないと考えている。

問 委託料が安くなったのなら、供用率の目標八十%を下げようか。

答 助役 今は目標をそのままにして、今後の推移を見て対応したい。

問 工事分担金の納入状況と、現在の供用率は。

答 住民課長 滞納者が五人あ

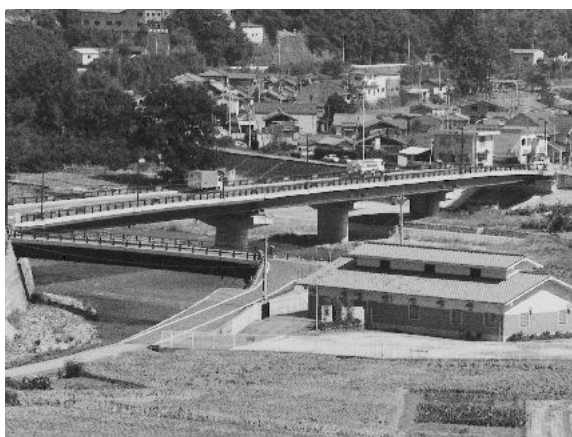
ったが完納できている。供用率は六十三%である。

同和对策事業廃止

同和对策課が四月より廃止され、町単独事業の小・中・高校および大学の入学支度金は十四年度以降廃止。

高校・大学の奨学金は十三年度入学者が卒業すれば廃止、残事業は二か年でほとんど終了すると報告がありました。

委員会として 了承しました。



管理委託料が安くなった集落排水施設

産業建設

商品券補助四倍に

二月二十六日に委員会を開き、十三年度補正予算、十四年度当初予算、農業委員の定数条例の改正と町道認定などについて説明があり審議しました。

問 商工会が発行している商品券の補助金は増額したのか。

答 産業振興課長 十三年度は三十万円であったが、今年度は百二十万円に増額した。

問 農業用機械（ユンボ）の利用は多くなっているのか。

答 産業振興課長 みかんの価格により変動もあるが減少している。



利用が減っている農業用機械

農業委員会
の定数条例の改正については、選挙による委員を十人、議会推せんは二人にしたい。全員協議会で協議し、三月議会で議案を提出したいとの説明がありました。

青線、赤線 十六年から町に移管

問 ふるさと農道の完成時期と事業費の総額は。

答 建設課長 十四年度で完了する。総延長三百五十mで、事業費は一億五千九百万円である。

問 青線、赤線の町移管はいつからか。

答 建設課長 十六年度からである。

町道認定については条件を満たせば、三月議会に提出したいとの報告がありました。
委員会として 全議案を了承しました。

常任委員会

視察報告

産業建設常任委員会は、昨年十月十六日から三日間、福岡県浮羽町の施設園芸団地と、熊本県産山村のグリーンツーリズム事業などの視察研修を行いました。

浮羽町は、トマトを中心とした施設園芸が盛んな町です。平成三年、生産者六人が県の補助事業を活用し、気象に左右されないトマト栽培に取り組み、平成八年には「ドリームファームうきは」を誕生させました。十月から翌年七月まで出荷し、過去には二億円以上の売り上げがありました。輸入農産物の影響を受け、現在は一億五千万円くらいとのこと。それでも他の農産物と比較するとかなり有利と思われます。
勝浦町でも、いろいろな施設園芸に取り組んでいます。少しで



ロックウールによるトマト栽培

トマトにも 輸入農産物の影響が

福岡県浮羽町

も有利な作物の選定を行い、産地化することが今後の課題だと思えます。

グリーンツーリズム事業 風力発電の 電気を販売

熊本県産山村

昭和三十九年、やまなみハイウェイが開通し、都会の人々が訪れるようになり、民宿が八戸誕生しました。平成九年に第三セクター「ゆうぶやま」と「株うぶやま牧場」を設立。十三年には風力発電を設置し、余った電気を九州電力に販売しています。

年間の利用者は、日帰り客九千四百五十人、宿泊客四万六千人と大規模なものです。
規模では参考になりませんが「ふれあいの里さかもと」も今後、年間を通じ収客を図る方が課題ではないでしょうか。地元が頑張りを期待しています。

町長選挙の感想は

反省の機会が与えられた（町長）

原田昭三 議員



合併出張講座

問 昨年から無投票の雰囲気の流れでしたが、告示直前で同僚議員が立候補し、八年ぶりの選挙となったが、その感想は。

答 町長 町民の声も聞くことができたし、自分も十分反省する機会を与えられ、選挙になって良かったと思っている。

問 選挙中、街頭演説で「町長の給与は引き下げ、職員給与は上げない」と言っていたが、職員の給与については人事院勧告があっても従わないのか。

答 町長 私の給与は引き下げると言っていたが、職員については上げないと言っていない。

あいまいでないか 合併地区説明会

問 今年に入って小松島市外四町の合併論が浮上し、町内各地区で説明会が行われている。中角地区では交付税の削減により財源が不足するので、合併せざるを得ないと説明があった。また、町立病院建物の借入金返済が五千万円、運営費が三千万円と言うが、十三年度は運営費として一般会計から出したのは実質一千五百万円である。これは事実でない数字を言っているのではないか。

答 町長 現在の状況では、財政を基本に考えていかなければならない。病院の運営費に



情報公開はマニュアル通りに

情報公開は条例 通りできているか

ついて一般会計からの繰り入れは今年は一千万五百万円であったが、過去には三千万円の時もあった。国からの交付税が減るからと言うが合併すれば過疎債は使えなくなるのではないか。

答 理事 合併特例法により十五年間は借入できることになっている。

問 情報公開条例が十三年四月に制定され十月から実施している。条例では請求があれば十五日以内に回答することになっているのに、請求したが返事がなかった。これは条例違反ではないか。

答 町長 秋本参事兼総務課長 情報公開マニュアル通りにできていなかった。今後はそのようなことがないようにしていきたい。

農地あつ旋 法的に問題は

問 農業委員会により星谷地区で農地のあつ旋が行われた。今年になってから取り下げがあったと聞くがどうなっているのか。また、申し込みより先に双方に契約ができていた場合、あつ旋はできないのではないか。

答 戸川産業振興課長 指摘の通りである。また、町農業委員会あつ旋基準にも抵触するおそれがある。

介護保険の 減免制度は

問 町長は「神戸市などの減免制度を調べさせている。国の三原則に添った形で検討している」と言っていたが、今議会に提案されていないのはどうしてか。

答 町長 できるだけ早く町の財政状況を見ながら煮詰めていきたい。

知事逮捕

町への影響は

今はまだ分からない（町長）



溝田義昭 議員

問 清潔を売りものにして、町長は、応援した知事が収賄容疑

で逮捕された事態をどう思っているか。

答 町長 先頭に立つて応援したが、本当に恥ずかしく町民におわびしたい。

問 町長は圓藤知事と特に親しく、優遇されてきたと聞く。今後の町財政や町内の公共事業、また、現在取り組んでいる松茂の最終処分場などに影響が出るのではないか。



どうなる松茂最終処分場

答 町長 新しい知事が決まってきたからでなければ分からない。

職員的能力を生かす取り組みを

前向きに検討したい（町長）

問 役場は、優秀な人材が町内で一番多く働く職場である。その能力を十分発揮させることが、町長や助役の大きな役目だと思ふ。職員的能力を開発し活用するマニュアルを作ってはどうか。

答 町長 職員能力を十分発揮させられないのは、自分の不徳と反省しているが、職員も町を愛する気持ちで見聞を出してもらいたいと思う。人材活用マニュアルは、前向きに検討していきたい。

問 職員の潜在能力を引き出すため、異動時にレポートを提出させるなどして、希望する課を募ってはどうか。

答 町長 そのような方法ならよいと思

うので、前向きに検討したい。

どうする

若者定住対策

空き家の利用などで（町長）

問 若者定住対策としての住宅建設は「マスタープランの宅地造成と併せて考えたい」と今まで答弁してきた。宅地造成は行わないと決めたというが、若者定住対策はどうするのか。

答 町長 町内の空き家利用などで、若者が住んでくれる町になるよう一生懸命取り組みたい。

問 京都の大江町では、五年前、定住対策として四十歳以下の夫婦を対象に、最長三年間滞在できるマンション形式の宿泊研修施設をオープンした。入所待ちが出るほど好評で、これまでに退所した二十三世帯のうち、十三世帯が町内に家を建て暮らしていると言ふ。こんな方策を考えてみては。



若者の定住対策は

答 町長 資料を取り寄せるなどして、勉強してみたい。

偽装表示

みかんにも

問題ないと認識

（産業振興課長）

問 食品の偽装表示が社会問題となつてきているが、本町の特産物である貯蔵みかんでも、高糖系の全品種を「十万」と表示して長年出荷している。これは米でいえば「日本晴」を「コシヒカリ」と表示して販売するのと同じで、偽装表示になるのでは。

答 戸川産業振興課長 長年培われてきた販売体制であり、品質的にも格差はない。市場側でも認知されているので、最終的には消費者が判断すると思うが、もう少し勉強したい。

問 消費者も値段と品質が合っているかどうか見分ける知識や、不審な点は聞く勇氣も必要だと思ふ。

答 尾原住民課長 消費者行政として「かしこい消費者になる」と常に呼びかけている。不審な点については、本年二月に全国六十三か所で食品表示一〇番が設置されている。

できたのか行政改革

さらに厳しい改革を（参事兼総務課長）

森 敏治 議員



では、改革が限界にきているのではないかと。

答 秋本参事兼総務課長 十四年度当初

予算でも、地方交付税は前年比八%の減額で財政調整基金一億円を取り崩し予算を組んだ。今後、さらに厳しい行政改革を進めていかなければならない。

六歳児未満の医療費の無料化を

無料化を

厳しいが検討したい（町長）

問

就学前の六歳児未満の医療費を無料にしてはどうか。また、その対象人数と医療費の総額はいくらになるのか。

答

光井福祉課長 乳幼児期の経済的負担を軽減するための方策として、十三年四月から六歳児未満の入院医療費

今後の病院経営の方針は

町長 財政的に厳しいが検討したい。

問

病床区分や民間委託など今までに議論されてきたが、今後の病院経営の方針は。

答

石尾病院事務局長 医療法の改正により、看護師の配置基準や入院患者の推移、医者、薬剤師の人数などの問題もあり、さらに検討していきたい。民間委託については、診療報酬等の経過を見極め検討していかねければならない。

公共工事の前払いの改善を

前払いの改善を

早急に改善したい（建設課長）

問

公共工事の前払い率と、対象契約金

額の状況はどうか。前払い制度は町の財務規則で定められている。本町は請負金額の三十%以内であり、県内のほとんどは四十%以内である。支払対象額は、一千万円以上の工事となっているが、他町村では百万円以上の工事となっているところもある。

答

坂井建設課長 前払い制度は町の財務規則で定められている。本町は請負金額の三十%以内であり、県内のほとんどは四十%以内である。支払対象額は、一千万円以上の工事となっているが、他町村では百万円以上の工事となっているところもある。

問

県内でも勝浦町の条件が一番厳しい。事業件数も減っているのに改善すべきではないかと。坂井建設課長 制度の改善に早急に取り組みたい。

答

市町村合併

説明会の感触は

合併について地区説明会を実施しているが、どのような感触か。

問

町長 立川地区を皮切りに四か所を実施してきたが、「合併は時代の流れでやむを得ない」との意見がほとんどである。

答

任意の協議会が設置されたが、町独自の基本計画が必要ではないか。

問

町長 六月に法定協議会設置の方向で進めている。早急に基本計画を策定する必要がある。

答



公共工事 前払い制度の改善を



6歳児までの医療費無料化を

問

組織の改革、合理化、給与等について

答

十二年十月に新行行政改革大綱実施計画が作成されたが、どのような改革が実施されたのか。

秋本参事兼総務課長 町の財政難と地方分権の受け皿づくりのため、行政改革調査会の答申を重く受け止め、特別職および管理職の期末手当〇・三か月分カット。県内出張の日当一部廃止、各種団体の補助金一律十%カット等を実施してきた。

ファームサービスマン事業 公社設立の考えは

法人化したい（産業振興課長）

川端雅夫 議員



を基に、今後、波及効果を高めていきたい。

問 ファームサービスマン事業の公社設立の考えは。また、昨年からの事業でもみすり機、乾燥機を設置し運営を委託すると言いが、その方法と雇用人数は。

答 戸川産業振興課長 法人化して事業の拡大を図っていきたい。今までは水稲中心であっ

たが、今後は、果樹、野菜、施設園芸へとサービスマンを拡大していきたい。雇用人数は、オペレーター二人、作業員十三人程度を予定している。

在宅介護の 具体策は

問 今年は在宅介護に重点を置くと言いが、その具体策は。

答 光井福祉課長 生きがいデイサービス「みかんの郷」を拠点として、通所によりゲートボール、歌、踊りなど趣味の活動や、配食サービス事業、軽度生活援助

事業、独居老人の巡回訪問などを実施していきたい。

問 今年も二級ヘルパーの養成研修を実施することだが、資格取得者が働ける場所の確保と就業人数は。

答 光井福祉課長 今後、高齢化社会の中で、独り暮らしや要援護高齢者が多くなること予測されるので、マンパワー確保の意味から今年も実施したい。現在十五人が介護人として就業している。

問 家族介護でも報酬が受けられる方法はないのか。

答 光井福祉課長 今後は、NPOの設立を目指すか、介護サービス事業者には雇用される以外にない。

勝浦病院の 存続は

どんなことがあっても存続したい（町長）

問 現在の患者四人に
対し看護師一人が、



存続できるか勝浦病院

国の方針通り三対一になる場合、増員を考えているのか。

答 石尾病院事務局長 現在看護師は外来に五人、病棟に十七人であるが、仮に国の基準に合わせると、三人の増員が必要である。今後、入院患者の動向や病床区分と併せて早急に検討したい。

問 看護師三人の増員については臨時職員を採用して、ワークシェアリング方式を考えているのか。

答 石尾病院事務局長 正式採用の募集には申し込みがあったが、臨時採用は応募がなかった。

問 病院の残業時間が昨年は六千六百七十二時間で、千二百四十一万円の経費がかかっているが、その多くは保険請求事務である。民間委託をして経費の削減を図ってはどうか。

答 石尾病院事務局長 保険事務の民間委託は住民サービスの面からも、今すぐにはできない。

問 町長は、合併問題と併せて病院の存続をどのように考えているのか。

答 町長 いろんなことがあっても存続を主張していきたい。

答 戸川産業振興課長 農家への情報提供

問 昨年からの農業振興アドバイザーを採用しているが、その役割と今までの成果は。

答 戸川産業振興課長 町内全域のみかん園の状況把握と、各種グループや団体の講師、営農講座など、JA、普及センター、町との三者一体となって活躍している。

問 アドバイザーの目的の一つは、農家所得の向上を図ることではないのか。



アドバイザー 成果はあったのか

国保税を引き下げては

減税は適当でない（税務課長）

神原 忍 議員



問 約八億円で運営している国民健康保険特別会計は、一千戸の世帯から一億七千万円の保険税を集めている。健全な運営に努力した結果ではあるが、現在一億八千万円余りの繰越金がある。住民は、保険税に対して重税感を持っているので、三分の一でも減税に回してはどうか。

答 島税務課長 保険税の軽減や減免は、法律や町の条例に基づいて行っている。定めのない軽減を行うと、国からの繰入金や交付金の収入

に大きな影響が出るので、減税の実施は適当でない。

答 町長 国保会計にゆとりがあるのは、国からの特定目的基金一千万円が大きく寄与しているが、減税を行うと、この収入がなくなる。また、昨年は二億八千万円あった繰越金が今年は一億円減っている。い

高額の医療の数が増えるかわからないので、安定した国保会計を守るには単年度で考えず、今の行き方がベターだと思う。

横瀬橋

周辺整備基金の 的確な処理を

問 横瀬橋関連で、棚野側の周辺整備費として五千万円余りの基金を積み立てているが、

拡幅などに対する進展が見られない。合併の方向に進みつつある現状から、早く拡幅を行うなど、基

金を的確に処理すべきではないか。

答 坂井建設課長 棚野の県道拡幅は、横瀬橋の改修と併せて計画していたが、用地の関係で実現しなかった。今年になって交通事故が二件続発して発生したこと

から、県の交通安全係に減速帯の設置を要望し了解を得ている。今後は、県単事業費



見通しの立たない棚野の県道拡幅

内での新たな改良計画になるが、県単事業の予算が十四年度は前年比二十%の減額となっているので、県道の改良は用地交渉ができることから取り組むことになる。

問 用地交渉ができないと言いますが、その体制を整えるのが理事者の仕事ではないのか。

用地交渉ができないと言いますが、その体制を整えるのが理事者の仕事ではないのか。

答 町長 用地の協力はあるし、設計を変更しな

ければ協力できないとの人もある。また、用地買収の要求額に個人差があり、折り合いがつかないなど問題もあるが早くできるよう頑張っていく。

県道新浜―勝浦線

中山地区の 拡幅は

星谷の工事が
終われば（建設課長）

問 県道新浜―勝浦線中山地区の狭い所

は、二年前に用地の了解を得ているのに今も手つかずのままだ。今山橋が完成すれば交通量も増えると思われるが、拡幅はいつになるのか。

答 坂井建設課長 現在工事を行っている星谷工区が終わり次第、中山工区に取りかかるよう県に要望してある。



用地OK早く拡幅を（中山工区）

市町村合併

なぜ一市四町の枠組なのか

地域の一体感がある（理事）

中田丑五郎 議員



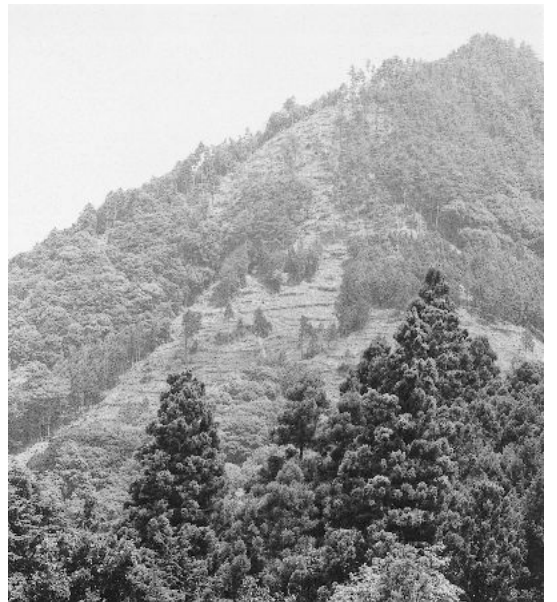
問 「みんなで考えよう勝浦町の未来」をキャッチフレーズに地区説明会が行われているが、出張講座との違いは、

答 理事 出張講座は合併の枠組を決めていない段階で、基本的な知識を知ってもらい、合併の機運の盛り上がり

問 県が示している一市二町の合併基本パターンから、一市四町の枠組に至った経緯は。

答 理事 一市二町よりもっと大きなエリアで考えていた。以前から那賀川、羽ノ浦の二町で合併の話し合いをしてきたが、人口二万人では市になれない。そこで那賀川と勝浦川に挟まれた地域の一体感がある小松島市と勝浦町、上勝町の

一市四町で合併を目指した協議を進めることになった。



林業にも直接支払い制度

判断したい。

問 合併により人口の減少がさらに加速しないか心配である。未来を託す子供の声が聞こえる活気のある新しい町づくりに、若者の声を反映してはどうか。

答 町長 できる限り積極的に若者に対する説明会を開き、意見をよく聞くようにしたい。

内容と取り組みは。

答 戸川産業振興課長 私有林、三十ha以上の団地を形成し、町との協定を結び計画的な作業に対する支援として、1ha当たり一百万円を支払う制度である。県の具体的な方針が示されれば、実施可能な作業に取り組んでいきたい。

林業版 直接支払制度への取り組みは

問 十四年度からスタートする「森林整備地域活動支援事業」の

備地域活動支援事業」の

農村舞台 地域文化の継承と交流人口の拡大を

問 今山の今宮神社は人形浄瑠璃上演として、全国で二か所しかない貴重な舞台である。

町の文化財に指定し、保存してはどうか。

答 山平教育委員会事務局長 地元の保存体制ができれば、町の条例に基づき、文化財保護委員会の意見を聞き対応したい。

問 木沢村坂州や、徳島市八多町のように人形浄瑠璃舞台として地元などに協力を求め、地域文化の継承と併せて交流人口の拡大による町の活性化につなげては。

答 町長 補助金等を活用し、浄瑠璃祭りの日を決め、町の活性化になるイベントを検討していきたい。

住宅マスタープラン事業 撤退説明が必要では

問 諸般の状況やアンケート結果に基づき宅地造成事業から撤退したが、地域関係者や購入希望者等に対し、撤退説明が必要ではないか。

答 町長 撤退理由を説明すべきと認識している。



復活間近の今山農村舞台

団体補助金

一律一割削減は無策だ

一割削減を継続する（町長）



福德重二 議員

就学前の医療費を無料化に

少子化時代の子育て支援として、県内でも就学前六歳児までの通院、入院医療費を無料にしている市町村が増えている。本町の対象者は百二十人、想定費用は三百五十万円から四百万円なので実施すべきだ。

町長 昨年四月に六歳児まで入院医療費の無料化を拡大した。通院医療費についても財政状況をみて、実施するかどうかの結論を早期に出したい。

町長 農業振興アドバイザーは百五十八万円の成果がないのでは

町長 全ての活動団体は町民にとって必要であり、一律一割削減で継続する。

町内の活動団体に支出している補助金は膨大である。昨年度からすべて一律一割削減をしているが、町民に対しての格好良い言い訳であって、あまりにも策がなさすぎる。活動内容を十分把握して一部削減、増額、廃止等根本的に見直す必要があるのではないか。

町長 農業振興のためアドバイザーがおか

町長 農業振興のためアドバイザーがおか

れているが「アドバイザーって何で、だれがしとんで、何しよんで」との町民の声もある。あまりにも知られていないのが実情で農家が利用できていないのであれば、年間百五十六万円の成果がないのでは。

町長 町民に十分周知徹底できてないようなので、今後は十分周知し利用してもらうよう努める。

自主防災組織に費用負担しては

消防団員は町外へ勤めている人が多

いので、それを補うため国からの補助金で二地区に自主防災組織ができています。他の地区から組織結成の要望があれば、国の補助がなくても全面支援してはどうか。

町長 町費を出すことはできない。国の補助金に期待したい。組織ができたなら訓練等には協力する。



私も参加 消火訓練

住宅マスタープラン中止か

三年間に二千七百万円で三か所住宅団地造成の調査研究をしたが、将来の税収面やその他細部まで研究したか。

町長 細部に渡る調査研究はしていないが、アンケート調査、財政面、諸般の情勢で撤退した。

町長 削減については、いつ実施するのか、また、助役、収入役と教育長はどうなるのか。

町長 削減については、いつ実施するのか、また、助役、収入役と教育長はどうなるのか。

給与削減はいつから

町長 給与削減は選挙公約にしている。

町長 給与削減は選挙公約にしている。



住宅マスタープラン調査地（沼江地区）

予算編成何を重点に

農業と福祉を基本に（参事兼総務課長）

森 健 議員



二百万円であるが、住民へのサービス予算は削減していない。

問 合併推進のための予算は計上されているか。

答 町長 当初予算では百十五万円計上している。

農業者の意識改革とは

問 国際化のなかでの農業経営の在り方について、調査研究の必要性がうたわれているが、具体化する考えは。

答 町長 視察研修を今年度中に具体化した。

問 農業者の意識改革に触れられているが、農業者意識をどのように理解し、どう変化

ることが望ましいと思うか。

答 町長 後継者難、価格低迷等農家は不安をもっている。交流人口の利用やインターネット販売による産直等に取り組み、自主自立の精神を培い、苦境にも負けない強い信念をもってもらいたい。

問 鳥獣被害の食い止めにについての具体策は。

答 戸川産業振興課長 生産者団体、猟友会等で協議会をつくり、年間を通じて対応できるように考えていきたい。

基金の見直しを

目的のなくなつたものは可能（参事兼総務課長）

問 基金のなかには、長年事業が行われず据え置かれたままのものがある。町づくりに役立つ時期と思うがどうか。

答 秋本参事兼総務課長 据え置きのもので目的があるものは取り崩すわけにはいかな

ペイオフ解禁の影響と対策は

い。撤退した住宅マスタープラン等目的のなくなつたものは可能である。

問 公金も自己責任において保全しなければならなくなつたが、その影響や対策は。

答 収入役 各種の基金を合わせると十億二千万円あり、その他の余剰金も定期預金と



公金の保全対策は万全か

するので影響を受ける。外部の専門知識を活用するなどして預託先の経営状況等の把握に努めると共に、職員の研修や公金管理の対策会議の開催を考えている。また、保全については預金と借入との相殺や国債による運用等が考えられる。

問 公金管理運用上の責任と範囲は。

答 収入役 個々の事例によって異なるが、法によって賠償責任が明記されている。

答 秋本参事兼総務課長 各課から要求があったのは三十四億五千万円、差額は一億三千

問 各課の要求額と最終査定額との差はいくらか。

問 十四年度の当初予算は33億1800万円、ゴロを合わせれば、「散々言われっぱなし」だが、何を重点において編成したか。

答 秋本参事兼総務課長 町長の方針である農業と福祉を基本とし、継続的なものに配慮した。



農業者意識をどう理解

三期目の重要課題は

ホッとする行政を（町長）

押栗義雄 議員



問 町長 三期目の基本姿勢と重要課題は何か。

答 町長 厳しい財政の中でも、住民がホッとするような夢があり心にぬくもりのある行政をしていきたい。

農業と福祉の町づくりを基本とし、知恵を絞って予算を組んでおり、交流を取り入れた町づくりも必要だと思う。

問 効果的、効率的な財政運営を図るため、予算編成にどのように取り組んだか。

答 町長 経費の節減や見直しを行い、効率的な配分に努めた。借入金ではできるだけ有利な財源を利用し、返済を多くすることを基本に取り組んでいる。

問 合併に対する地区説明会が行われているが、町民の理解と法定協議会設置に向けての取り組みは。

答 理事 町民の理解を得るために、パンフレットの配布と町の広報を活用して情報提供

市町村合併 法定協議会への 対応は

特色を生かした町づくりを（助役）

問 合併に対する地区説明会が行われているが、町民の理解と法定協議会設置に向けての取り組みは。

答 理事 町民の理解を得るために、パンフレットの配布と町の広報を活用して情報提供



各課に1人の職員で合併対応

を考えている。四月から任意協議会に専任職員を派遣を行う。法定協議会が設置されれば、将来の町づくりを考えるため、庁内各課に一人の職員配置を考えている。

答 助役 町民の意見を反映しながら、地域の特色を生かし、子や孫に誇れる町づくりに取り組みたい。

ふれあいの里さかもと 運営と振興策は

客のニーズをつかみ計画を（産業振興課長）

問 体験学習、観光対策や、宿泊対応など今後の取り組みについてどう考えているか。

答 戸川産業振興課長 体験学習の年間行事予定は決まっているが、客のニーズをつかみ計画を立てることも必要である。観光対策は、ビッグひな祭り等のイベントの活用や、地域の産業との連携も重要である。宿泊対応はもてなしの心を形に表す研修も必要で、今



体験学習 今後の取り組みは

後、人的支援や補助金を活用して、スムーズな運営に努力していきたい。

勝浦経済の 活性化策は

問 雇用対策や所得向上対策、また、産業振興策は。

答 町長 農業を中心に取り入れた産業振興を図る。農家の意欲を高め、付加価値の高い農産物作りを目指していきたい。また、観光や福祉の中で補

助金を活用し、雇用の創出に取り組んでいく。

歳入減に どう対応

問 地方交付税の大幅な減額により、多額の財政調整基金を取り崩し新年度予算を組んでいるが、今後の財政運営に対する考えは。

答 秋本参事兼総務課長 厳しい財政状況なので、やむを得ない場合を除き補正予算は考えていない。

市町村合併

他の選択肢はないのか

今は一市四町で進める（町長）

中西晴美 議員



た、現在、各地区住民と対話を行い、意見を聞いて回っている。

問 地理的条件や病院の存続、農林業に対する取り組みなどから見ても、まず上勝町との合併を行い、地方交付税の減額を回避してはどうか。

答 町長 上勝町も含めた、一市四町で話し合いが行われているので、二町だけの話し合いの場は難しい。

諸問題については、勝浦町の特徴を生かすよう法定協議会の中で位置付けを図っていききたい。

問 合併に対する予算は百十四万円余りを計上しているが、十三年度はどのくらいの費用を使ったのか。

答 秋本参事兼総務課長 パンフレットの作成や、任意協議会の

負担金、旅費などで三十九万円使っている。

未来をひらく

産業とは

よつてネ市など

（町長）

問 町長の所信表明重点六項目の第一に「未来をひらく産業づくり」とあるが、具体的にどう言うものか。

答 町長 よつてネ市とかグリーン・ツーリズム事業、また、都市との交流にプラスした観光農業等合わせて進めていきたい。

減債基金

六億円必要では

五億円が目標 助役

問 十四年度の公債費で借入と償還額はどうなっているか。また、十四年度末での借入金の高はいくらになるか。

答 町長 償還は八億三千万円、借入は三億八千万円である。できるだけプライマリーバ



バスは減便せずに維持できるか

ランスを保って、平成十六年のピークを乗り切りたい。

答 秋本参事兼総務課長 借入金の残高は、一般会計で五十一億三千五百万円余り、特別会計を合わせると六十二億五百万円余りとなる。

問 一番財政の厳しい平成十六年度は、減債基金で対応するとうが、六億円くらいの基金が必要でないか。

答 助役 減債基金は平成十四年度末で三億九千万円余りを見込んでおり、五億円を目標に積み立てていきたい。

問 地方交付税の町民一人当たりの交付額はいくらになっているか。

答 秋本参事兼総務課長 二十六万四千三百九十八円である。

問 地方バス路線維持費補助金として四百五十八万六千円が計上されているが、この程度で路線バスは減便せず維持できるのか。

答 秋本参事兼総務課長 減便のことは聞いていないので、通常通り運行されると考えている。

答 町長 住民の意見は重要だと思うが、今は一市四町が対等の立場で話し合っている。ま

問 小松島市、那賀川町、羽ノ浦町、上勝町と本町の合併話が急速に進み、六月に法定協議会を設置すると言いが、町民の幸せを考えると、一つの方向に絞るべきではない。まず住民の意見を聞き、半数以上の町民が納得できる段階まで周知徹底を図るのが一番大事ではないか。



大盛況のよつてネ市

学校週五日制

土曜日がどのよう

生かされるか

ボランティアなどで豊かな

人間性を

(教育長)

国清 栄 議員



答

教育長 週五日制の目的は児童、生徒にゆとりの中で、地域や家庭で興味や関心を持つ自然体験や社会体験、ボランティアを通じて主体的に判断し、生きる力や人を思いやる豊かな人間性を育てることである。

教育長 週五日制の目的は児童、生徒にゆとりの中で、地域や家庭で興味や関心を持つ自然体験や社会体験、ボランティアを通じて主体的に判断し、生きる力や人を思いやる豊かな人間性を育てることである。

答

教育長 小学校では勝浦川の生き物を調べたり、空き缶拾いをしたりして環境について学んでいる。また、みかんの収穫や農協、試験場を見学し勝浦農業の勉強、喜楽苑での車いす体験や保育所の子供たちとの交流などを行っている。

具体的に取り組んでいる事例や今後の計画は。教育長 小学校では勝浦川の生き物を調べたり、空き缶拾いをしたりして環境について学んでいる。また、みかんの収穫や農協、試験場を見学し勝浦農業の勉強、喜楽苑での車いす体験や保育所の子供たちとの交流などを行っている。中学校ではクリンセンター視察などを行っている。教育委員会として

問

具体的に取り組んでいる事例や今後の計画は。

学校、家庭、地域社会が連携を持って取り組めるようにしたい。



どう変わる教育現場

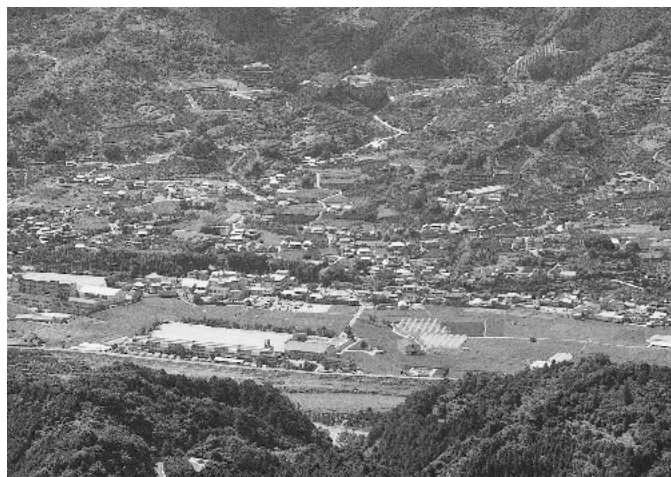
問

中学校では選択教科に充てる授業数が学年により変動がある。

一学年で三十単位まで、二学年で五十から八十五単位、三学年で百五から百六十五単位となっているが、この授業選択の中で内容的に充実できるのか。また、生徒それぞれの希望教科に対応できるカリキュラムが組めるのか。

答

教育長 生徒一人ひとりの選択肢があるの、クラスごとの



どう変わる20年先の勝浦は

答

町長 人口は五人ぐらいで、高齢化比率四十%、子供の出生数も二十人を割る時代になると思う。合併も進み、県道徳島―上那賀線や新浜―勝浦線は、改良されて交通網もかなり発達しているのではと想像している。

奨学金の利用者が少ない原因は

金額が少なすぎるのかも

(教育委員会事務局長)

問

せっかく予算化された奨学金が消化されていない。基準を緩和したり、貸付額を上げはどうか。

答

山平教育委員会事務局長 五人分の予算を組んでいたが、申込者は一人であった。利用者が少ない理由として高校で月二万円、大学が三万円では今の時代に合っていないのではないかとと思う。よく検討してみたい。

十年先、二十年先の勝浦は

問

町長は合併に関する答弁の中で「十年、二十年先を見た勝浦を考えなければ」と言われたが、どのような姿を想定しているのか。

市町村合併

どうなる町関係施設

法定協議会で調整するものも(町長)

西浜勝己 議員



問 合併に向け一市四町で法定協議会を設置すると言うが、病院、クリーンセンター、簡易水道、特別養護老人ホームなどの施設や、横瀬、生比奈財産区はどうするのか。

答 町長 病院は存続できるように法定協議会の中で主張していきたい。クリーンセンターについては、広域行政での施設ができるまでは維持しなければならぬと思っている。簡易水道は

いろいろ問題もあるが、法定協議会で調整していく。特別養護老人ホームは福祉法人が運営しているが、行政としても更に充実するよう支援したい。財産区は存続を望む声も強いので、関係者の意見を聞き煮詰めていきたい。

問 特別養護老人ホームへの入所希望者が七十人も待機しているが、福祉の充実は町の重要施策だ。あらゆる

る制度を活用して増設する必要があるのではないか。
答 町長 増設したい気持ちはあるが、国の補助など財政的な問題もあり検討する段階ではない。

町道補修の対応は

予算を二千万円増額 (建設課長)

問 町道で補修や改良を要する箇所は非常に多いが、その数を掌握できているのか。また、それに対する予算はどの程度と判断しているか。



70人の入所希望待機者が



完成したライスセンター

答 坂井建設課長 舗装等がかなり傷んでいることは認識しているが、具体的にはつかない。予算は一千万円増額し四千万円で対応したい。各地区と協議し、緊急性などで優先順位をつけ対応する。

問 事業が行われている。本年ライスセンターが完成するので、法人化する協議も行っている。果樹関係では、グループによるせん定が行われているが、将来はこれも含めて考えていきたい。

ファームサービス事業の状況は

ライスセンターが完成 (産業振興課長)

問 ファームサービス事業の充実強化を図るとのことだが、その状況はどうなっているか。
答 戸川産業振興課長 現在は水稲を中心

ビオトーププランの内容は

情報をつかみ対応したい(理事)

問 理事はアンテナを高く掲げ、情報を早く入手し担当課に伝えると言ったが、何を入手し反映させたか。また、とくしまビオトーププランの内容は。

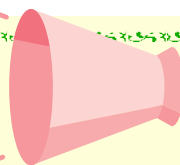
答 理事 国際文化村構想は、東部中山間地域活性化事業の名称で都市との交流を図り、地方から文化発信をする事業で、100%県の委託料で取り組むことになっている。また、一市四町合併の取り組みが進んだことも一つの成果だと思おう。ビオトーププランは、生物の住みかを保全するため、県内百か所程度をモデル的に選んで指定する事業だが、プランを策定中で不明の点も多い。今後正確な情報をつかみ対応したい。

知事逮捕と町長の行動は

問 「天地神明に誓つても」とか、「悔しくて悔しくて」と答弁した圓藤知事が汚職で逮捕されたが、町の後援会長としてどう思うか。

答 町長 先頭に立つて町民にお願いしてきた。申し訳ない。今後は、応援に慎重を期したい。

声のひろば



若者が 住み続けたい町に

谷 光子さん（山西）

（長崎県北松浦郡江迎町出身）



Q 故郷はどんなところですか。
A 長崎県の北のはずれです。海の見える草原や、きれいな滝のある所でしたが、中学生から名古屋に移りました。今は両親が住む名古屋が第二の故郷です。

Q 勝浦に住むことになったきっかけは。
A 十二年前に勝浦に住む主人の祖母が身体を悪くして、一人暮らしの生活が無理になり、

その世話のために住むことになりました。

Q どんなお仕事ですか。
A 喜楽苑のホームヘルパーです。

Q 現在の家族構成は。
A 祖母が亡くなり、今は主人と娘二人の四人暮らしです。それと愛犬のジューニーがいます。

Q 勝浦町の印象は。
A 静かで自然がいっぱい。

Q この町に来て驚いたことは。
A 夜になると、ほんとに真っ暗闇になってしまうことです。

Q 感心したことは。
A 婦人会や愛育班活動など、女性の地域活動が活発なことです。

Q 里帰りは今までに何回く

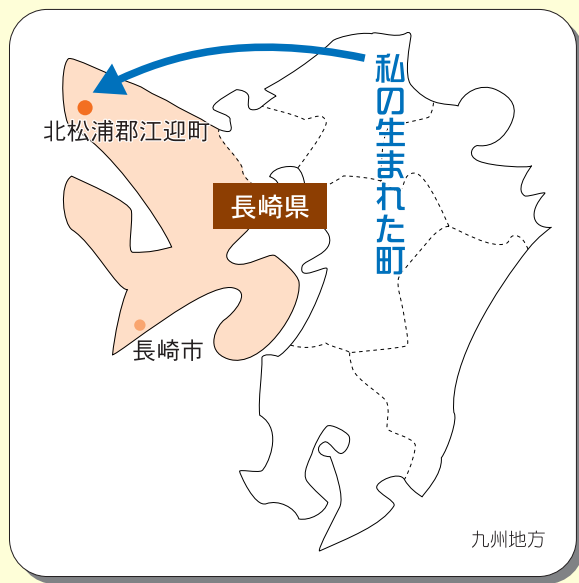
らいしましたか。

A 年に一回くらいでしたが、この一年は私の両親の体調が悪く、行ったり来たりしています。

Q 将来どんな町になれば良いと思いますか。
A 若い人たちが住み続けたいと思うような、活気ある町になってほしいです。

Q 好きな言葉は。
A 冬は必ず春となる。

Q 趣味は。
A 手芸です。



編集後記

現職知事の逮捕は前代未聞の出来事で、県民の信頼を裏切るものでした。「政と官」、「選挙とカネ」の関係で政治に絡む不祥事の数々が連日のように報道され、政治への不信が渦巻いています。

三月議会は町長選挙後の初議会、理事者に対する質疑は予算のこと、市町村合併等数多くの課題について議論が行われました。四月十四日付徳島新聞に議員、理事者も「議会での発言の重みを自覚して」との勝浦町議会定例会の記事を目にしました。

このような批判をされることなく「信頼される議会」となるよう真剣な議論と心を新たにしました。お気軽に議会の傍聴に来ていただき、ご意見を聞かせてください。

（丑）

